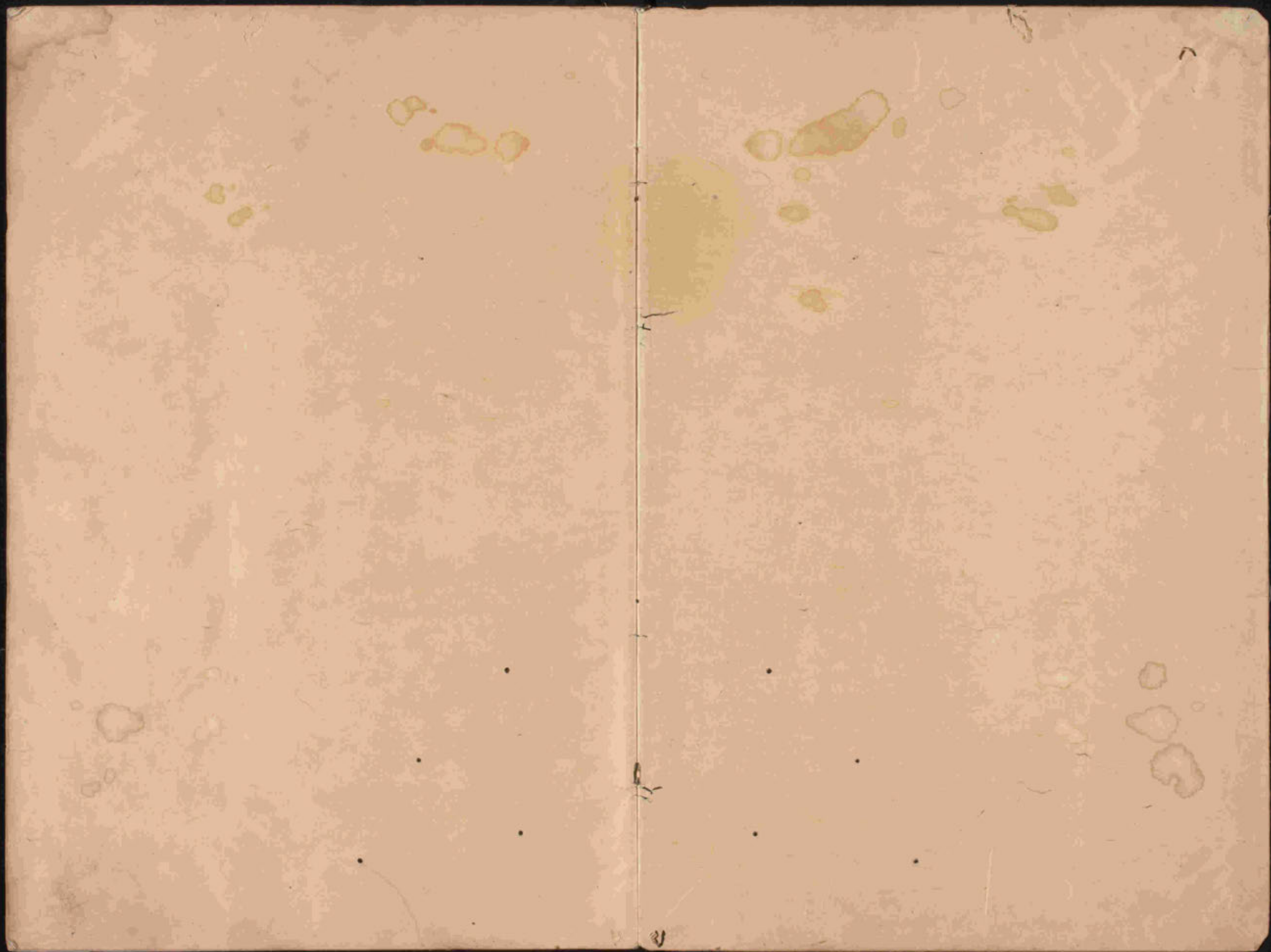
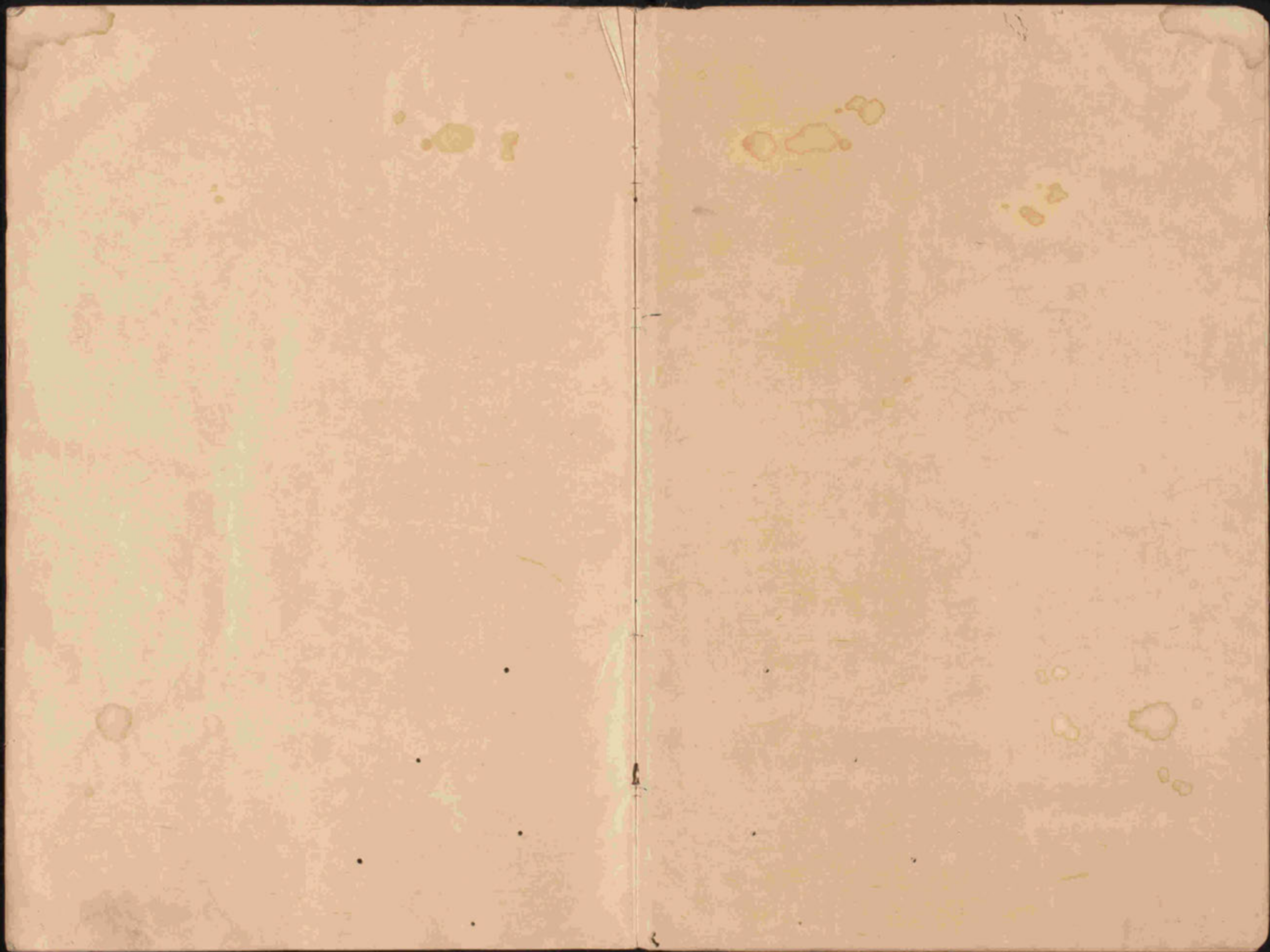


清溪和歌集







後撰和歌集巻第一

春尋上

元日正月一日に二条乃きりこの宮りてしるすにほ
ちきげしむりりて

藤原敏朝

白雪乃みのしら夜うらきに春こもきりて井らうか

春立日たぎひはる

元日正月一日の朝恒

春きりしむらにのうらみりて

兼盛

うらみりておもしろむらにのうらみりて

あまの人乃むらにの女むすめ侍りけりて

月日つきひはるにのうらみりて

ゆらきたりきりにあふらなみ

よみ人

白雪乃のしら夜うらきに春こもきりて井らう

朱雀院乃子日たねつばきはるにのうらみりて

侍りてえいにのうらみりて

小川おがわ乃のうらみりて

杉乃のうらみりて

院いのち乃のうらみりて

まじりくみ人から春の野乃つらふとをうたひるり
子目に井ののししよりふふねひい
母より出るていとをたひ

よみ人へあす

君乃の山小ねむひに花つあなぢつ
い

霞立はす乃野ののつらふとをうたひるり

子目へまよりをうたひるり
いづしけり みにほ

春乃野小い心つあなぢつあなぢつ

宇多院に子目きんごありをれい式部卿の
かこをうたひるり

り明親の 寛平の

古郷乃野のみふしつあなぢつあなぢつ

初春のの手を みる

氷乃井にあつ吹きつらふとをうたひるり

寛平の御はままのいいのいい

よみ人へあす

吹乃の春まきぬいけしいあなぢつあなぢつ

宿所へはしほしほ梅の影をみれば春の影もほろほろと

娘喜師は言ひしはらふはなれし

記
まはるる

春霞のまじりてあけぬる月影のこぼれをたづねて

おのゝ時みりし所をたづねてはらふはなれし

あけぬる月影のこぼれをたづねて

くしあけぬる月影のこぼれをたづねて

みりし

宿所へはしほしほ梅の影をみれば春の影もほろほろと

娘喜師は言ひしはらふはなれし

伊世

白雲の影をみれば春の影もほろほろと

くしあけぬる月影のこぼれをたづねて

あけぬる月影のこぼれをたづねて

春きて我が心はあけぬる月影のこぼれをたづねて

記
まはるる

宿所へはしほしほ梅の影をみれば春の影もほろほろと

娘喜師は言ひしはらふはなれし

あけぬる月影のこぼれをたづねて

くしあけぬる月影のこぼれをたづねて

梅宿る梅のしづかに静かに春の風を待つ

しづかに静かに春の風を待つ

春の風

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

よみか

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

梅花おれよなほなほわづらひの春の風を待つ

小梅乃木侍らわりの花さしあしとしかたもい
さうさくしんごうしんげの成音かへはるれ

朱崖院乃吾部卿のあし
歌同三言 五言 五言 五言

じろ花いよ盛なちりふんそのうへのとにれを思

中納言長右衛門
中納言 長右衛門 中納言 長右衛門

春るよとらじは旬かじわつから枝を久とるす

春乃日このにむかひわくよとる

よみ人

梅花ちうてふたより春るのふとつがうらむすの夢

かみしんはちりけり人の家乃まふたの柳氏

思ひかゝる みるは

いづの家乃まふた青柳に今わたるは鳥の夢

ね乃しんまはれは侍りて花をみわらへ

坂上是則

あみちりこの松乃をいふうらむ花とよむは

藤原雅正

花乃まらぬまらりり故郷にけり松の緑をりら梨

お梅乃花とみて みるは

紅乃多成りくはむのうらむはあはれわける

まはれはむしわらへりさけりさけり(梅)

花の雪のしるしをみよ

貴

ふり雪のしるしをみよ
兼補初春の福のよき紅梅をうら
けり成りもちり乃後花を
けり成りもちり乃後花を
よわき

春のふり雪のしるしをみよ
兼補初春の福のよき紅梅をうら
けり成りもちり乃後花を
けり成りもちり乃後花を
よわき

後撰和歌集卷第二

春年中

うらみおいて乃らじあいのりか
乃春おもふ所あり

藤原扶幹初春

うらみおいて乃らじあいのりか
乃春おもふ所あり

後原伊勢初春

竹道く春床はゆき
かきけ初き
かきけ初き

僧正遍昭

とち神宮ののの梅花のしほけり
花のく道信のしほけり

素性法師

と守のしほけり高妙の梅花のしほけり
しほけりしほけりしほけりしほけり
しほけりしほけりしほけりしほけり

梅花のしほけりしほけりしほけりしほけり
しほけりしほけりしほけりしほけり

み思ふしほけりしほけりしほけりしほけり
しほけりしほけりしほけりしほけり

梅の花をよみ人よみ人しほけり

ゆめをよみ人の梅花のしほけりしほけり
若菜に行るしほけりしほけりしほけり

坂上是則

梅花のしほけりしほけりしほけりしほけり
しほけりしほけりしほけりしほけり

とち花のしほけりしほけりしほけりしほけり
貞観御時ゆめをよみ人しほけりしほけり

河原太夫

とち花のしほけりしほけりしほけりしほけり
しほけりしほけりしほけりしほけり

家より花見所にもうは前栽の梅も
むにゆいけけ

菅原右大臣
菅原朝臣季房の孫
長治三年二月
三十一日

梅花もゆきもあはれあはれ吹雪の風も

春乃あらしを 伊勢

青柳乃けしきもあはれあはれ吹雪の風も

花乃あらしを 九河内躬恒

あはれ思ふにゆきもあはれあはれ吹雪の風も

ゆきもあらしを よみ人未詳

かづらもあらしもあはれあはれ吹雪の風も

朱雀院乃あらしのおもひの事もあはれ

朝倉乃あらしのおもひの事もあはれ

物乃あらしのおもひの事もあはれ

大將所懸所
大將所懸所
能子元更秋後

さしはらふ我にさしはらふ梅花もあはれ

ゆきもあらしを よみ人未詳

あはれ思ふにゆきもあはれあはれ吹雪の風も

あはれ思ふにゆきもあはれあはれ吹雪の風も

あはれ思ふにゆきもあはれあはれ吹雪の風も

あはれ思ふにゆきもあはれあはれ吹雪の風も

かゝるを考ふとくちりてはむらさきもくもく
春雨乃くしるはなむらさきもくもく
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
たふらふらふらふらふらふらふらふらふら
たふらふらふらふらふらふらふらふらふら
たふらふらふらふらふらふらふらふらふら

藤原師平朝臣 北土系名臣乃名將
天仁大極

き柳乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく

まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく

まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく

まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく

まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく

まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく
まの乃くしるはなむらさきもくもく

壬生忠孝一のたはなりりいのおさふてあを
こきく侍けふにがまに身をうしめて侍
けらぬまに

純いふゆに

ありあはし年こふけいり春夜の

いふゆに(まぢむ)いふゆに

巻二

後撰和歌集巻第三

春序下

題意 五七五 九十九 五五五
藤原二巻 五十八 五

贈大政大臣あひわはく後ある所まじり
乃こゑのよせいりりりり

藤原顯忠朝臣母

大御海軍
後撰二巻 五十八 五

寫乃たしむるこゑ昔もくわらひんこのあふ
はらぬ乃花のえいよこきあけりちちり
みく申勢につりけり

母貫く

いふゆに(まぢむ)いふゆに
いふゆに(まぢむ)いふゆに

いにしへのさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

花乃しとていふもよもやなむすむすのうらなひに

かこまけりしにがたに

三つあも

春のさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

春花のさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

いにしへのさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

あはれあはれむすむすのうらなひに

よもやなむすむすのうらなひに

よみ入る

春霞のさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

井のさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

春日のさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

いにしへのさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

鶯のさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

陽吹草一三品 陽吹草一三品 陽吹草一三品 陽吹草一三品

をさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

えのさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

いにしへのさかきとていふもよもやなむすむすのうらなひに

35

よみ入る

花の文は昔のうしにやへ人のいふもさしりういほ
月乃おもしろかりけり花をもなや

源さねあき

わさよる月と花はまきくはまはこいふまきわ

わさるのわさよ家より藤原治方にい

りもき
橋平女

宮へよきおさく蛙かぐわさの井このよ吹の花

すけのし。母身はりてのら

家に敷忠朝臣のまかりたふしけり梅

の花のちりけり井のいまあはすのせいに

侍るれい家乃人のいほ

よみ人よき

里よりけり梅もちるまふしに思こまひき

ぬ
敷忠朝臣
あつたの
上三三末大女
五年藤原朝
二年花

風よりふあつたを梅花のいあつたふらういあ

梅川さよ所かりし

いよめ

いねりわも考ふふいさつた娘の花

お敷にふ吹あつた所

兼輔朝臣

つゝまじしむい女に愛する八重のころもねむるを
恋しす
在原えぬ

しほいしほいさぬ花がれじらつゝもゆくはかり
寛平御はさく乃花の宴ありせらぬ雨の
しほかりたれ
藤原敏行納言

春あは花の枝よりふれし猶もねれぬやうに
いひみ乃くまうまわりじらつゝみのに
よみ人
す

春ふも色にはあはれはるのうこみはに
女は花をくまうまわりじらつゝ
ね

曲侍よるなる納言

春くれ花みくもいし心も野乃のみこし
あはれははしはる人のくまうまわりたれ
花盛に
す

よみ人
す

我とくまうまうのめ春霞をいし
源清隆朝臣
五七
花

くらよめ春乃霞はまのしほ花のわあみれ
し橋の折くまうまわりたれ

よみ人
す

君よ... いづれか...

...
...
...

...
...
...

よみ人

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

兼輔納屋

よきもなほしつゝのふりさのまへにせしむるまゝしりぞく
しりぞく

あはれなれどもよきもなほしつゝのふりさのまへにせしむるまゝしりぞく
しりぞく

鶯乃しほしつゝのふりさのまへにせしむるまゝしりぞく
しりぞく

みじか

あはれなれどもよきもなほしつゝのふりさのまへにせしむるまゝしりぞく
しりぞく

源中宣朝

大納言宣朝 光孝公曾孫
宣朝公 永年六十四

あはれなれどもよきもなほしつゝのふりさのまへにせしむるまゝしりぞく
しりぞく

あはれなれどもよきもなほしつゝのふりさのまへにせしむるまゝしりぞく
しりぞく

兼輔

あはれなれどもよきもなほしつゝのふりさのまへにせしむるまゝしりぞく
しりぞく

兼輔

あはれなれどもよきもなほしつゝのふりさのまへにせしむるまゝしりぞく
しりぞく

ていつてはうらふらうらむにんじを侍の

いひま

又よき時うごかぬ人こそ思我かよりのい

貫くくつておがしむるかまきりしを
およき者か

後撰和歌集巻第四

夏弄

顔不知

讀人ト寸

ふよりの夏のしるしにありぬれども人さしづらむら
卯花乃びけらかよねの月さよみわらさきとわさし
卯月ちりなすらるす侍しつ所をくかへ
うらふよきうらむにんじを侍の
をくかくなむ侍のなれ

郭ろきわらうつしなちさつしよら
はら
はら

あはれしきものゝしるしにたはちかたは

さののち

又月夜なるものゝしるしにたはちかたは
かゝるものゝしるしにたはちかたは

讀人不知

るしるしにたはちかたはしるしにたはちかたは

しるしにたはちかたは

又月夜なるものゝしるしにたはちかたは
かゝるものゝしるしにたはちかたは

しるしにたはちかたは

あはれしきものゝしるしにたはちかたは
かゝるものゝしるしにたはちかたは

しるしにたはちかたは

あはれしきものゝしるしにたはちかたは
かゝるものゝしるしにたはちかたは

夏はあつたものゝしるしにたはちかたは
かゝるものゝしるしにたはちかたは

あはれしきものゝしるしにたはちかたは

あはれしきものゝしるしにたはちかたは

伊勢

あはれしきものゝしるしにたはちかたは
かゝるものゝしるしにたはちかたは

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれ

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれ

あはれなるものぞかし

あはれ

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あはれなるものぞかし

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたて

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたて

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひ

あつたてのうらなひのうらなひ

あつたてのうらなひ

左大臣 小野宮

いさむらふもむねしづかしのあはれに
いさむらふもむねしづかしのあはれに
いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

いさむらふもむねしづかしのあはれに

後撰和歌集卷第六

妹尋中

妹喜御所は妹三のりしむし我はきしむる
け
きりしむる

妹霧乃ららぬはらるるわかにあきくまの
花みこ出あも妹のらきわの風

寛平清和きむのま乃言を

よみく

浦道と之妹きあむかかぐ増の

あーあ母乃女郎む合

夏東皇

かりつらつらまむあかあか
よみく

妹の野はあをら女郎花はあかあか
女郎花あをのらあかあか

あかあかあかあかあかあか
あかあかあかあかあかあか

道清更衣

源周子 右大臣
主将明親王手内親王三人

あかあかあかあかあかあか

御

妹喜御更衣

侍りせし
よみくま

白鳥のうにけりあへむかひに後下葉の文を結むすべ

か
伊規

らあし身草葉のわなは娘のこころを

あゝのこころを

よみくま

人こころをうらみたるは我が娘のこころ

くさねのこころを

くさねのこころを

中宮宣旨

花すこがもあはれなるは昔の草を結むすみ

あ
こ

宿をよみくまにうらみたるは我が娘のこころ

あ
よみくま

娘のこころをうらみたるは我が娘のこころ

あはれなるは昔の草を結むすみ

たふさ

あはれなるは昔の草を結むすみ

あはれなるは昔の草を結むすみ

あはれなるは昔の草を結むすみ

いにしへ

母君

妹君乃まにく妹をいぬつゝあつてはるるまはる

いし

天智天皇御製

妹乃田入りふのいふももみわも我衣てはるはれつ

よみ

我袖もなうをくちり天はせりまはるはれつ

妹君乃枝もいぬいありけりまはるをくちりあはれ

わつ宿のお花うのいふをきしりおはるはれつ

也書はほしり

いし

さび鹿乃まにく妹をいぬつゝあつてはるるまはる

妹乃野の草もいぬいありけりまはるをくちりあはれ

又原朝康

白鳥よ月の夜もいぬいありけりまはるをくちりあはれ

いし

秋乃いもく白鳥をいぬいありけりまはるをくちりあはれ

いし

よみ

をくちりまはるのいぬいありけりまはるをくちりあはれ

白鳥乃枝乃このいぬいありけりまはるをくちりあはれ

妹乃野乃まにく白鳥のいぬいありけりまはるをくちりあはれ

くまの袖へにまきしをくまのうらまの後の野らなるん
大まにわの袖をのわまにゆるく家でもしてまじ
朝もまきく家袖のまきしをゆるく家の海はうら
わたりうらまら

にんじま

娘の野の草むらさきむらさき福のむらさきくまのまきし

るのむ

くまのうらまら後まきしゆるく家の海はうらまら

よかへ

娘のうらまらむらさきむらさき福のむらさきくまのまきし

神もむらさき月のまきしゆるく家の海はうらまら

娘のうらまらむらさきむらさき福のむらさきくまのまきし

小野義村

娘のうらまらむらさきむらさき福のむらさきくまのまきし

るのむ

娘のうらまらむらさきむらさき福のむらさきくまのまきし

惟貞の清子の家へまきし

よかへ

娘のうらまらむらさきむらさき福のむらさきくまのまきし

娘のうらまらむらさきむらさき福のむらさきくまのまきし

八月廿九日

妹はよりの更に月影をまなこしうまのハ務
直哉の姉三つありてまなこにまなこ

貫く

女席もまなこは娘のしるべきに常^るよわたたはしかり^ま
人よりしるべきに常^る

娘身よりしるべきに常^る女席もまなこはわたり^ま
まなこ

女席もまなこは娘のしるべきに常^るよわたたはしかり^ま
女席もまなこは娘のしるべきに常^る

女席もまなこは娘のしるべきに常^るよわたたはしかり^ま
女席もまなこは娘のしるべきに常^る

女席もまなこは娘のしるべきに常^るよわたたはしかり^ま
女席もまなこは娘のしるべきに常^る

みり社

七つありてまなこは娘のしるべきに常^るよわたたはしかり^ま
七つありてまなこは娘のしるべきに常^る

女席もまなこは娘のしるべきに常^るよわたたはしかり^ま
女席もまなこは娘のしるべきに常^る

直哉はまなこは娘のしるべきに常^るよわたたはしかり^ま

後撰和歌集卷第七

坂下

歌不知

讀人不知

あはるきさく人あはるきさくはるのあはるきさく
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
寛平御はまのあはるあはる

在原棟梁

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる
あはるあはるあはるあはるあはるあはるあはるあはる

くしん

娘はまゝにいらしてゐるがなむしやうの病氣もあつた
娘はまゝにいらしてゐるがなむしやうの病氣もあつた
娘はまゝにいらしてゐるがなむしやうの病氣もあつた
娘はまゝにいらしてゐるがなむしやうの病氣もあつた
娘はまゝにいらしてゐるがなむしやうの病氣もあつた

なげ

年々おとろひてゐるがなむしやうの病氣もあつた
年々おとろひてゐるがなむしやうの病氣もあつた
年々おとろひてゐるがなむしやうの病氣もあつた
年々おとろひてゐるがなむしやうの病氣もあつた
年々おとろひてゐるがなむしやうの病氣もあつた

なげ

天可なりうらやまの病氣もあつた
天可なりうらやまの病氣もあつた
天可なりうらやまの病氣もあつた
天可なりうらやまの病氣もあつた
天可なりうらやまの病氣もあつた

魚捕りたはれしはむしやうの病氣もあつた
魚捕りたはれしはむしやうの病氣もあつた
魚捕りたはれしはむしやうの病氣もあつた
魚捕りたはれしはむしやうの病氣もあつた
魚捕りたはれしはむしやうの病氣もあつた

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき

つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

藤原忠房綱長
天保十一年
八月十四日

娘身乃之野の病氣もあつた
娘身乃之野の病氣もあつた
娘身乃之野の病氣もあつた
娘身乃之野の病氣もあつた
娘身乃之野の病氣もあつた

くしん
立原元方

うらやまの病氣もあつた
うらやまの病氣もあつた
うらやまの病氣もあつた
うらやまの病氣もあつた
うらやまの病氣もあつた

三田 友則

かばりてはるるの錦をのりて

よきよき

つとむるにのりてはるるの錦をのりて

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

よきよき

この山をなすてまゝの山をなす

平作の細書 大徳三年

娘のよきものさしをのきし

かたもさるるのむらじ

しるの美者まのむらじ

しる娘のむらじをなす

しる娘のむらじをなす

源のむらじ

しる娘のむらじをなす

しる娘のむらじをなす

しる娘のむらじをなす

故まのむらじをなす

しる娘のむらじをなす

しる娘のむらじをなす

しる娘のむらじをなす

しる娘のむらじをなす

しる娘のむらじをなす

源のむらじ

しる娘のむらじをなす

しる娘のむらじをなす

しつていふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

いふていふ

藤原敦忠御書

藤原敦忠御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

源宗平御書

Handwritten text in Arabic script, rightmost line on the right page.

Handwritten symbol or character, right page.

Handwritten text in Arabic script, second line from the right.

Handwritten symbol or character, right page.

Handwritten text in Arabic script, third line from the right.

Handwritten symbol or character, right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line from the right.

Handwritten symbol or character, right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line from the right.

Handwritten text in Arabic script, sixth line from the right.

Handwritten symbol or character, left page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line from the right.

Handwritten symbol or character, left page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line from the right.

Handwritten text in Arabic script, ninth line from the right.

Handwritten text in Arabic script, tenth line from the right.

Handwritten text in Arabic script, eleventh line from the right.

Handwritten symbol or character, left page.

Handwritten text in Arabic script, twelfth line from the right.

Handwritten text in Arabic script, thirteenth line from the right.


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

在春中 清幸同

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

贈左政大臣

時年 思存院

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

源氏のついで

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

春曆

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~











~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

源三郎の銅色
三本五六平
中納言市男天五苑

~~~~~

無威



取らば斬り置かす。今も此の如くは、  
此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

大浦の如くは、右大浦

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、

此の如くは、此の如くは、此の如くは、



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

申格

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


又

敏伸とみのぶ

ふかきほちりしきしめし何れか
しるしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか

藤原敦忠綱也

あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか

後原敦忠綱也

平家七代権守
平家六代権守

あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか

こまらつあし

あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか
あしきしめしあしきしめし何れか

枇杷たまたま

か

伊槻

あはれなる御心
人乃たはにりし

源等納衣

東路乃このちま橋ひての思ひはるる

人よりけり
紀長若雄納衣

るしてわらなちまきりたわの方に行わし

女よりけり
女より

あはれなる御心

あはれなる御心

男よりけり

あはれなる御心
あはれなる御心

女よりけり

あはれなる御心

あはれなる御心

女よりけり

源等納衣

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

大江朝總綱 三木元徳元徳

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

貞元親王 清和帝三十四年元徳
三木元徳の仲統女

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる
在原棟梁女 清和帝の御孫

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

梅子頼朝氏 延慶二年の
三木元徳の仲統女

あまのこころにまはるるわがこころもあまのこころにまはるる

歌一節子

年一室文

新乃...
あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

せり

まじり

何乃...
あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

いれはけり

いれはけり

俺...
あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

歌一節子

在系え方

み...
あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

東...
あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

いれはけり

在系え方

あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

歌一節子

在系え方

高砂乃...
あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

長明乃...
あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

いれはけり

在系え方

よ...
あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

歌一節子

在系え方

あつらへらるる女乃家のわんわんはあつらへらるる

わがこころいまだあはれむしうらけり
り
藤原重茂朝子 赤後右兵衛督 長保元年

あはれむしうらけり
あはれむしうらけり
あはれむしうらけり

板實利納氏

あはれむしうらけり
あはれむしうらけり
あはれむしうらけり

あはれむしうらけり
あはれむしうらけり
あはれむしうらけり

車定入文

あはれむしうらけり
あはれむしうらけり
あはれむしうらけり

あはれむしうらけり
あはれむしうらけり
あはれむしうらけり

あはれむしうらけり

貫一

あはれむしうらけり
あはれむしうらけり
あはれむしうらけり

全生息奉

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

年 月 日

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

原 田 村

法明
中納言

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

一 井ノ口

後撰和歌集卷第十一

戀舟三

女乃なもしむにりりし

三東右大臣

名りおしり津坂のいづれに人かよし我らうら

在るえりありしもの

きしりしむらさきもよきしむらさきもよきしむらさきもよ

きりよみく

きしりしむらさきもよきしむらさきもよきしむらさきもよ

女のなもしむにりりし

うらやまはなまきしむらさきもよきしむらさきもよ

女なのなもしむにりりし

あきあき

きしりしむらさきもよきしむらさきもよきしむらさきもよ

りりしむらさきもよきしむらさきもよきしむらさきもよ

男乃あきもよきしむらさきもよきしむらさきもよ

ありあきもよきしむらさきもよきしむらさきもよ

かきしむらさきもよきしむらさきもよきしむらさきもよ

+

宿しむらさきもよきしむらさきもよきしむらさきもよ

しうち我道言乃る可まにんはかき名あたる

や

あみく

うつそしははまきんしちあひまらふは我のけり

かたわちじにひきく東の(は)りけり

りてあひひきてはな。の(は)まな

道かたにんしちあひまらふは我のけり

くまははひひき後(は)あひまらふは我のけり

わりく(は)我の(は)あひまらふは我のけり

あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

くの(は)あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

清原諸實

くはちの(は)あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

や

あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

あひまらふは我の(は)あひまらふは我のけり

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

讀人不知

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

伊平朝臣
一最勝殿伊平 大徳三郎 早九

あつたてのついでに

あつたてのついでに

あつたてのついでに

在東業平朝臣
我任朝臣

あつたてのついでに

よみかへ

あつたてのついでに

年中一真
まこと男 左門権佐 宗公

あつたてのついでに

あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え
あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え

魚捕綱福

あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え
あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え

あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え
あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え

あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え
あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え

あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え
あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え

あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え

魚捕綱福

あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え
あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え

魚捕綱福

あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え
あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え

魚捕綱福

あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え
あはれなるわがしるすまよつとまはるて又え

誰かへつゝおまへもなつかしうもてらるる御座り候へば
まじりて居り候へば月夜もあつてはさうなつかしう
なり候へば

清正

そなたへつゝおまへもなつかしうもてらるる御座り候へば
まじりて居り候へば月夜もあつてはさうなつかしう
なり候へば

本院書法

そなたへつゝおまへもなつかしうもてらるる御座り候へば
まじりて居り候へば月夜もあつてはさうなつかしう
なり候へば

魚尾納札

夕に我が方のことおまへもなつかしうもてらるる御座り候へば
まじりて居り候へば月夜もあつてはさうなつかしう
なり候へば

ありりの元方

そなたへつゝおまへもなつかしうもてらるる御座り候へば
まじりて居り候へば月夜もあつてはさうなつかしう
なり候へば

女校のしるし

そなたへつゝおまへもなつかしうもてらるる御座り候へば
まじりて居り候へば月夜もあつてはさうなつかしう
なり候へば

戒法法師

そなたへつゝおまへもなつかしうもてらるる御座り候へば
まじりて居り候へば月夜もあつてはさうなつかしう
なり候へば

若

月夜の思ひをよみてはしるす

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

後奈良朝長

あはれ所はしるすはるかに

あはれ所はしるすはるかに

あはれ

くまのしんがうのついでに

あまのこころのまはるる

のまはるる

藤原まはるる

右の恒後子
左の上右の

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

師成太極の白牡丹梅茶
天孫元花

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

まはるる

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

純由親と
三三の

まはるるのまはるる

まはるるのまはるる

いづくの春もあはれにまはりにまはし国を
あいらびて侍りけり人のまゝくこすをりて
乃ららむとあはれにまはるるまはりにて
又もとき侍りけり人のまゝくこすをりて

よみ入まはす

あはれなるもあはれにまはるるまはりにて
あ

あはれ

今にまはるるまはるるまはるるまはるる
あはれなるもあはれにまはるるまはるる

あはれ

あはれなるもあはれにまはるるまはるる
あはれなるもあはれにまはるるまはるる
あはれなるもあはれにまはるるまはるる

讀人不

あはれなるもあはれにまはるるまはるる
あはれなるもあはれにまはるるまはるる
あはれなるもあはれにまはるるまはるる

藤原信幹

あはれなるもあはれにまはるるまはるる
あはれなるもあはれにまはるるまはるる
あはれなるもあはれにまはるるまはるる

後撰和歌集卷第十二

鳥尋白

あはれはしらべのしらべのしらべ

わが鳥のしらべのしらべのしらべ

しらべのしらべのしらべ

しらべ

あはれはしらべのしらべのしらべ

あはれはしらべ

しらべのしらべ

あはれはしらべのしらべのしらべ

あはれはしらべのしらべのしらべ

しらべのしらべ

あはれはしらべのしらべのしらべ

あはれはしらべのしらべのしらべ

しらべ

あはれはしらべのしらべのしらべ

あはれはしらべ

しらべのしらべ

あはれはしらべのしらべのしらべ

あはれはしらべのしらべ

あはれはしらべのしらべのしらべ

かー

おはせよもふちるー相坂のきたのびんをいしんさく
Goverment
はらうさくちをいしんさく

平年より二十

まーいしんさくをいしんさく

かー

原貞城

まーいしんさくをいしんさく

まーいしんさくをいしんさく

よみかへ

おはせよもふちるー相坂のきたのびんをいしんさく

まーいしんさくをいしんさく

まーいしんさくをいしんさく

まーいしんさくをいしんさく

まーいしんさくをいしんさく

おはせよもふちるー相坂のきたのびんをいしんさく

まーいしんさくをいしんさく

まーいしんさくをいしんさく

おはせよもふちるー相坂のきたのびんをいしんさく

まーいしんさくをいしんさく
贈太政大臣

あはれなる心にて
かへりて
あはれなる心にて

わが心は
あはれなる心にて
あはれなる心にて

くはるは
あはれなる心にて
あはれなる心にて

紅はあはれなる心にて
あはれなる心にて

くはるは
あはれなる心にて
あはれなる心にて

月を
あはれなる心にて
あはれなる心にて

あはれなる心にて
あはれなる心にて
あはれなる心にて

あはれなる心にて
あはれなる心にて
あはれなる心にて

あはれなる心にて
あはれなる心にて
あはれなる心にて

あはれなる心にて
あはれなる心にて
あはれなる心にて

りつ

申啓

梅の香も春の風もさかすかに

きこゆるはなはなはなはな

はなはなはなはなはな

はなはなはなはなはなはな

はなはなはなはな

はなはなはなはなはなはな

はな

はなはなはなはなはなはな

はなはなはなはな

あつたはなはなはなはなはな

はなはなはなはなはなはな

兼香後中納言

はなはなはなはなはなはな

はなはなはなはなはな

はなはなはなはな

はなはなはなはなはなはな

はな

はなはなはなはなはなはな

はなはなはなはなはなはな

あまのついでにわがはらへてはるる
あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

源一の綱

善徳三年三月

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

春澄善徳綱

善徳三年三月

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

あまのついでにわがはらへてはるる

かー
よへー

かー
よへー
かー
よへー

貴く

かー
よへー
かー
よへー

かー
よへー
かー
よへー

高砂乃相

かー
よへー

かー
よへー

貴く

かー
よへー

讀く

かー
よへー

かー
よへー

けりおしよに乃じし人真姓法師よしの(を
しるす) 國の(か)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす

建曆綱目

しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)

建曆綱目

しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)

しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)
しるす(を)りし(を)りし(を)りし(を)りし(を)

小野道元綱

~~~~~

女の綱

甚房の綱

~~~~~

女の綱

女の綱

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

大補

~~~~~

~~~~~

~~~~~

朝忠の綱

~~~~~

女の綱

大補

~~~~~

~~~~~


後撰和攝集卷第十三

志存又

志存又

在原業平朝臣

此記其後也為平山田非書也

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれ

あはれ

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれ

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれ

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれ

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれ

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

あはれもわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心もわらわの心も

かへつけれがさうりあひけりちま

よみ人

くしるしとてはわりの昔がの我が方に
みまにまはれ又物にまはれまはれ
こゝろにまはれまはれまはれ
都らまにまはれまはれまはれ
人のまはれまはれまはれ
つねよりまはれまはれ
あはれまはれまはれ
あはれまはれまはれ

あはれまはれまはれまはれ

あ

あはれまはれまはれまはれ

あはれまはれまはれまはれ

あはれまはれまはれまはれ

源英明朝下

右中侍藏人政元
元禄五年
春
源英明朝下
源英明朝下

あはれまはれまはれまはれ

あはれまはれまはれまはれ

あはれまはれまはれまはれ

後京為世

あはれまはれまはれまはれ

ねらふまぢきほのさうーわらちの袖もわしたるまじし
女のまじりしうらゐるくわらぬこまじり
けぢ

贈古政大臣

あゝ思ひもよこす言のこり類はひぢぢぢぢぢ
おのゝこりけりしなかりをいぢぢ
ありけりしなかりをいぢぢぢぢぢ
おのゝこりけりしなかりをいぢぢ

よぢぢ

くわらぬまぢきほのさうーわらちの袖もわしたるまじし
女のまじりしうらゐるくわらぬこまじり
けぢ

若くはまぢきほのさうーわらちの袖もわしたるまじし
女のまじりしうらゐるくわらぬこまじり
けぢ

ねらふまぢきほのさうーわらちの袖もわしたるまじし
女のまじりしうらゐるくわらぬこまじり
けぢ

あゝ思ひもよこす言のこり類はひぢぢぢぢぢ
おのゝこりけりしなかりをいぢぢ
ありけりしなかりをいぢぢぢぢぢ
おのゝこりけりしなかりをいぢぢ

贈古政大臣

ねらふまぢきほのさうーわらちの袖もわしたるまじし
女のまじりしうらゐるくわらぬこまじり
けぢ

誰よりわづれ。今なきはるかに

女はさかしのこころ

よみく

きんあつしう。あつしうはるかに

あつしう

あつしうはるかに。あつしうはるかに

あつしうはるかに。あつしうはるかに

あつしうはるかに。あつしうはるかに

あつしうはるかに

あつしうはるかに。あつしうはるかに

あつしうはるかに。あつしうはるかに

あつしうはるかに

あつしうはるかに。あつしうはるかに

あつしうはるかに

あつしう

あつしうはるかに。あつしうはるかに

あつしう

あつしうはるかに。あつしうはるかに

あつしうはるかに

あつしう

あり〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜

あ〜〜〜〜〜

あ〜〜

あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜

あ〜〜〜〜〜

あ〜〜

あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜

あ〜〜〜〜〜

あ〜〜

あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜

あ〜〜

あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜

あ〜〜

あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜

あ〜〜

あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜

あ〜〜

あ〜〜

あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜

あ〜〜

まじりてみ

信也我今こめり 雅はなまぬいりしとわん

一のいなりちあくのさあわいさね

こまこしちあた大信のさへはけれり

敦忠綱を

聖代はたすまふて無代
上時敦忠は成雅雅信
諸軍同

いふこつかおしねまゆいしあてあもるは

る頼朝のじすも一のいすみはけり

いしりありて思ひにるはれに

るいしり
朝忠朝を

諸代はたすまふて無代はたすまふて無代

年をくすむく人のいさへのおはりま

れいりりいすまもいりりりり

清隆朝を

くくちあるくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

ふりりりり

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

わが心からいふに

よるよるにわが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

わが心からいふに

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes. Includes a signature at the bottom left that reads "東京有徳" (Tokyo Aridoku).

Handwritten text in cursive script, continuing the list or notes from the previous page.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or notes from the previous page. Includes several lines of text with some red markings.

Handwritten text in Arabic script, likely a header or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a date or reference.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

Handwritten text in Arabic script, possibly a name or title.

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心
あはれなる御心

何乃保まよりにそまに今わの思ひよも糖をゆり

ぬり
よまに
ぬり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

源
ぬり

よみかへりて

よみかへりて
よみかへりて

よみかへりて
よみかへりて
よみかへりて

よみかへりて
よみかへりて
よみかへりて

善書
無誤

よみかへりて
よみかへりて
よみかへりて

元古

よみかへりて
よみかへりて
よみかへりて

よみかへりて

よみかへりて
よみかへりて
よみかへりて

善書
無誤

Handwritten text in Arabic script, top line.

Handwritten text in Arabic script, second line.

Handwritten text in Arabic script, third line.

Handwritten text in Arabic script, fourth line.

Handwritten text in Arabic script, fifth line.

Handwritten text in Arabic script, sixth line.

Handwritten text in Arabic script, seventh line.

Handwritten text in Arabic script, eighth line.

Handwritten text in Arabic script, ninth line.

Handwritten text in Arabic script, tenth line.

Small red handwritten mark or signature.

Handwritten text in Arabic script, top line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, seventh line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, eighth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, ninth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, tenth line of the right page.

な

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

あはれなるものこそよきものなりけり

ちりせし草花のうきうき

うきうきうきうきうき

うきうき

草花のうきうきうきうき

うき

うきうきうきうきうきうき

うきうきうきうき

うきうきうきうきうきうき

うき

うきうきうきうきうきうき

え長乃きこよるうきうき

うきうき

うきうきうきうきうきうき

うきうきうきうきうきうき

うきうきうきうきうきうき

うきうき

うきうきうきうきうきうき

うきうきうきうきうきうき

うきうきうきうきうきうき

うきうきうきうきうきうき

武平 隆安三年 又延四年 卷十一

南院式部卿の女二の女三

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

源泰朝長

在京三法奉行

りけり

贈る致大長

わすりにまじりてしるやちの園をよるるをよる所
をよるにまじりてしるやちの園をよるるをよる所
りよる雪のすいりあつるあつるあつるあつる
けり

右様

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる
源山明 是忠親王子 天曆五 三木 兼光の綱を十月のりよるるをよる所

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

よるる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

通補綱目

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる
あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる

あふうのう園は春をにらりしはまはし
ひふ人をみく 蟬丸

まがらひのうたがらつとあるまきとあふうの
うらうら男とあつてあふいはるうら

小野小町

あまのうすし浦まへみくらをみよけつとあふうの
あひのうすし浦まへみくらをみよけつとあふうの
けれいといふ人のいふあふうのいふあふうの
あふうのあふうのあふうのあふうのあふうの
あふうのあふうのあふうのあふうのあふうの

讀人不知

濱の鳥のいふあふうのあふうのあふうのあふうの
はなとあふうのあふうのあふうのあふうのあふうの
枝をみりく 素性法師

あふうのあふうのあふうのあふうのあふうのあふうの
西院の石をみりくあふうのあふうのあふうのあふうの
けれいといふ人のいふあふうのあふうのあふうのあふうの
いけいといふ人のいふあふうのあふうのあふうのあふうの

あふうのあふうのあふうのあふうのあふうのあふうの
あふうのあふうのあふうのあふうのあふうのあふうの
あふうのあふうのあふうのあふうのあふうのあふうの
あふうのあふうのあふうのあふうのあふうのあふうの

かゝるるの御事... 大江土御朝臣女

あまのつとむる御事... 元長の女

あまのつとむる御事... 又も

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

中略

元長... 常世... 母... 仁...

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

あまのつとむる御事... 御事

魚捕朝臣 延長五年任中納言 元三年左近将 起上膳五人八年右近将

故郷乃みまのい遠けはるかにしるのしるぬる
あちのまじりて人の住るのむらさき
あくのちる魚捕網のあては家も

みり社

むき根人(じ)も老きねのころあひま
人のむすえは源のひきすすはけりぬ
しむあはてかーるむしはけりぬ
すてしるはるまはるむすむすむす
あちのまじりて人の住るのむらさき

女のしる

小田乃あろしにむすあはれむしる
三糸太人(むす)むすあはれむしる
りあわりむすあはれむしる
むすあはれむしる

いそがしむすあはれむしる
あはれむしる
あはれむしる

廣明朝中納言天仁三可中納言 申叙三任七年左無味會
叙三任く日着大台花流別也

人か子まし〜あしを介のあ〜り〜り〜りのあし

あし〜り〜り〜り

る方乃派乃申と女乃汝が長柄の柄。わしまはは
京極乃とてす新のあもなかりて戒ふしとて
に和さよとてい〜くゆけ汝。

わりのこのか
教實 西の 寛平十八
天白出家 康保四苑

徳乃さかりあて年ひるう〜りのわし〜るなを〜と女
女乃あしを〜り〜り〜り〜り

あし〜り〜り〜り

あし〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

あし〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
あし〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

あし〜り〜り〜り

年を〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
あし〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
あし〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

あし〜り〜り〜り

あし〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
あし〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り
あし〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

まのりちをりしりしむるまのりちをりし
ふれいふむしりしむるまのりちをりし
しむるまのりしむるまのりちをりし
むるまのりしむるまのりちをりし

源ら忠朝也

まのりちをりしむるまのりちをりし

ふりしむるまのりちをりし

まのりちをりしむるまのりちをりし

まのりちをりしむるまのりちをりし

天慶元年正月右抄 二年正月下
令兼三年正月不叙同
天仁三年上載 三十四年 止天仁
天仁三年 右大御 四年又天仁 赤保四致社 止天仁

後撰和詩集卷第十六

雜歌二

思ふ心わりのく 前々次大信によきて付け

在原業平朝臣

そのまのりちをりしむるまのりちをりし
まのりちをりしむるまのりちをりし
むるまのりしむるまのりちをりし
まのりちをりしむるまのりちをりし
むるまのりしむるまのりちをりし

在原業平朝臣

あつらひのたむけもまゝに
前申官宣旨贈を致大木の家より申す
いふあつらひの家にもふし
こいふ事なむいけ

宣旨

みらりちのたむけもまゝに
贈を致大木

贈を致大木

日頃のたむけもまゝに
いふあつらひの家にもふし
こいふ事なむいけ

あつらひの朝

あつらひのたむけもまゝに
贈を致大木

いふあつらひの家にもふし
こいふ事なむいけ

贈を致大木

あつらひのたむけもまゝに
贈を致大木

いふあつらひの家にもふし
こいふ事なむいけ

贈を致大木

あつらひのたむけもまゝに
贈を致大木

いふあつらひの家にもふし
こいふ事なむいけ

あつらひのたむけもまゝに
贈を致大木

かゝるものも、
我は、
師は、

我は、
師は、

師は、

よみ人

いふも、
おのゝ、

おのゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

あゝ、

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣

藤原朝臣
天保九年九月廿五日
天保九年十月廿五日

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣



藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣藤原朝臣

藤原朝臣

Handwritten text in Arabic script, top right page.

Handwritten text in Arabic script, middle right page.

Handwritten text in Arabic script, bottom right page.

Handwritten text in Arabic script, top left page.

Handwritten text in Arabic script, middle left page.

高はの親と 振筆

此門 春 考 の 為 し 候 に 候 後

Handwritten text in Arabic script, bottom left page.

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text line 1 on the right page.

Handwritten text line 2 on the right page.

Handwritten text line 3 on the right page.

Handwritten text line 4 on the right page.

Handwritten text line 5 on the right page.

Handwritten text line 6 on the right page.

Handwritten text line 7 on the right page.

Handwritten text line 8 on the right page.

Handwritten text line 9 on the right page.

Handwritten text line 10 on the right page.

Handwritten text line 11 on the right page.

Handwritten text line 12 on the right page.

Handwritten text line 13 on the right page.

Handwritten text line 14 on the right page.

Handwritten text line 15 on the right page.

Handwritten text line 16 on the right page.

Handwritten text line 17 on the right page.

Handwritten text line 18 on the right page.

Handwritten text line 19 on the right page.

Handwritten text line 20 on the right page.

Handwritten text line 1 on the left page.

Handwritten text line 2 on the left page.

Handwritten text line 3 on the left page.

Handwritten text line 4 on the left page.

Handwritten text line 5 on the left page.

Handwritten text line 6 on the left page.

Handwritten text line 7 on the left page.

Handwritten text line 8 on the left page.

Handwritten text line 9 on the left page.

Handwritten text line 10 on the left page.

Handwritten text line 11 on the left page.


~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



بسم الله الرحمن الرحيم

الحمد لله

الحمد لله الذي هدانا لهذا الذي كنا لنهتدي لولا أن هدانا الله

والصلاة والسلام

على سيدنا محمد وآله الطيبين الطاهرين

الذين هم خير البرية

والذين هم خير الأمة

والذين هم خير البشر

والذين هم خير الخلق

والذين هم خير

الخلق

والذين هم خير من خلق الله

والذين هم خير من خلقه

والذين هم خير من خلقه

والذين هم خير

والذين هم خير من خلقه

والذين هم خير من خلقه

والذين هم خير من خلقه

والذين هم خير

والذين هم خير من خلقه

والذين هم خير من خلقه



Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text in the middle of the right page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten text in the middle of the right page, below the main body.

Handwritten text at the bottom of the right page.

Handwritten text at the bottom of the right page, continuing from the previous line.

春... Handwritten text at the top of the left page.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

周院... Handwritten text in the middle of the left page.

枇杷... Handwritten text at the bottom of the left page.



意忠朝母方及びわが親に意忠とて  
人の子に生れしはわが親の下に草の

女に就

費らむ事なきに  
意忠朝母方の家も  
わが親に生れしは  
わが親の下に草の  
人の子に生れしは  
わが親の下に草の

わが親の下に草の

後子

わが親の下に草の  
わが親の下に草の  
わが親の下に草の  
わが親の下に草の  
わが親の下に草の  
わが親の下に草の  
わが親の下に草の  
わが親の下に草の  
わが親の下に草の  
わが親の下に草の

わが親の下に草の

後子

わが親の下に草の











あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは

あはれなるにこそは



Handwritten text in cursive script, first line on the left page.

Handwritten characters, possibly a signature or date, in the middle of the first line.

Handwritten text in cursive script, second line on the left page.

Handwritten text in cursive script, third line on the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line on the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line on the left page.

Large handwritten characters at the top of the right page.

Handwritten text in cursive script, first line on the right page.

Handwritten text in cursive script, second line on the right page.

Handwritten text in cursive script, third line on the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line on the right page.

Large handwritten characters at the bottom of the right page.



سید محمد باقر صاحب کرامت مدظلہ العالی

مقام: مدرسہ عالیہ

کراچی، پاکستان

تاریخ: ۱۰/۱۰/۱۳۸۵ھ

بسم اللہ الرحمن الرحیم

الحمد لله رب العالمین

والصلاة والسلام على من لا نبي بعده

وبعد فقد حضرنا اجتماعاً

مباركاً

عقدها في يوم الاثنين

العاشر من شهر ربيع الثانی

سنة ۱۳۸۵ھ الموافق لـ ۱۰/۱۰/۲۰۱۴م

عند

ساعة ۱۰:۰۰ صباحاً

في قاعة الاجتماعات

بمدرسة العالیہ کراچی

والتواضع

محمد رفیق صاحب

مدرسہ عالیہ کراچی

۱۰/۱۰/۱۳۸۵ھ



三

馬

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人

人







一ノ

一ノ

大井ノ

一ノ

一ノ

大井ノ

大井ノ

一ノ

一ノ

大井ノ

一ノ

一ノ

大井ノ

大井ノ

大井ノ

一ノ

大井ノ

大井ノ

大井ノ

一ノ

一ノ

大井ノ

一ノ

一ノ

大井ノ







今

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て

て



蒙古の事

文屋康秀

蒙古の事  
蒙古の事  
蒙古の事  
蒙古の事

七

蒙古の事  
蒙古の事  
蒙古の事  
蒙古の事  
蒙古の事  
蒙古の事

周院大君

宗平朝臣

蒙古の事  
蒙古の事  
蒙古の事  
蒙古の事

か

蒙古の事

蒙古の事

五十七



後撰和詩集卷第十八

雜弄一首

あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば

あはれなきはなをみれば

源善朝良 延元元年

あはれなきはなをみれば あはれなきはなをみれば















Handwritten text in cursive script, top line on the left page.

Handwritten text in cursive script, second line on the left page.

Handwritten text in cursive script, third line on the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line on the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line on the left page.

Handwritten text in cursive script, sixth line on the left page.

Handwritten text in cursive script, seventh line on the left page.

Handwritten text in cursive script, eighth line on the left page.

Handwritten text in cursive script, ninth line on the left page.

Handwritten text in cursive script, tenth line on the left page.

Handwritten text in cursive script, top line on the right page.

Handwritten text in cursive script, second line on the right page.

Handwritten text in cursive script, third line on the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line on the right page.

Red handwritten note: 在故中...

Handwritten text in cursive script, fifth line on the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line on the right page.

Red handwritten note: 在...

Handwritten text in cursive script, seventh line on the right page.

Handwritten text in cursive script, eighth line on the right page.

Handwritten text in cursive script, ninth line on the right page.

Handwritten text in cursive script, tenth line on the right page.



左大臣の家もくわんしんをりくわんしん  
よみけりしなごりしんをりしんをりしん

おるぬ草ふし物おしんち神あつちしりくわんしん  
くわんしんをりしんをりしんをりしん

くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん  
くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん  
くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん

くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん  
くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん  
くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん

くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん  
くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん

くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん  
くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん

くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん  
くわんしんをりしんをりしんをりしんをりしん

左大臣



Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the entire page.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the entire page.

讀人不知



Handwritten text in Arabic script, top line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, sixth line of the right page.

Handwritten text in Arabic script, top line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, second line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, third line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fourth line of the left page.

Handwritten text in Arabic script, fifth line of the left page.















善法師乃伊高のくもふるはたうる

ま

善法師乃伊高のくもふるはたうる

ま

善法師乃伊高のくもふるはたうる

ま

ま

善法師乃伊高のくもふるはたうる

ま

善法師乃伊高のくもふるはたうる

善法師乃伊高のくもふるはたうる

善法師乃伊高のくもふるはたうる

ま

善法師乃伊高のくもふるはたうる

善法師乃伊高のくもふるはたうる

善法師乃伊高のくもふるはたうる

善法師乃伊高のくもふるはたうる

善法師乃伊高のくもふるはたうる

ま

善法師乃伊高のくもふるはたうる



Handwritten cursive text on the left side of the top page.

Vertical handwritten text, possibly a signature or date.

Handwritten cursive text on the right side of the top page.

Vertical handwritten text, possibly a signature or date.

Handwritten cursive text on the left side of the bottom page.

Handwritten cursive text on the right side of the bottom page.

Small handwritten mark or character.

Handwritten cursive text on the left side of the top page.

Small handwritten mark or character.

Handwritten cursive text on the right side of the top page.

Small handwritten mark or character.

Handwritten cursive text on the left side of the bottom page.

Small handwritten mark or character.

Handwritten cursive text on the right side of the bottom page.

Small handwritten mark or character.

Handwritten cursive text on the left side of the top page.



Handwritten text in Arabic script, likely a continuation from the previous page.

源 源

Handwritten text in Arabic script, including a red mark above a line.

Handwritten text in Arabic script, including a circled word.

Handwritten text in Arabic script, possibly a section header.

Handwritten text in Arabic script, including a red mark above a line.

Handwritten text in Arabic script, including a red mark above a line.

Handwritten text in Arabic script, including a red mark above a line.

大補



Handwritten text in Arabic script, likely a continuation of a letter or document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a signature or a specific phrase.

贈大官

Handwritten text in Arabic script, continuing the flow of the document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a date or a reference.

Handwritten text in Arabic script, likely a closing or a specific instruction.

讀人不知

Handwritten text in Arabic script, possibly a note or a signature.

Handwritten text in Arabic script, possibly a date or a reference.

Handwritten text in Arabic script, continuing the flow of the document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a date or a reference.

Handwritten text in Arabic script, likely a continuation of a letter or document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in Arabic script, continuing the flow of the document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a date or a reference.

Handwritten text in Arabic script, likely a continuation of a letter or document.

Handwritten text in Arabic script, possibly a signature or a specific phrase.

Handwritten text in Arabic script, continuing the flow of the document.







Handwritten characters at the top left of the left page.

Handwritten characters at the top right of the left page.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines of cursive script.

Handwritten characters at the bottom center of the left page.



Main body of handwritten text on the right page, continuing the cursive script from the left page.

Final lines of handwritten text at the bottom of the right page.







草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに

草花のついでに



後撰和詩集卷第二十

賀正 哀傷

女八のみ元良乃み入るよ四十の賀正  
けらよきこ乃花をかこみおちて

藤原伊衡御筆

百よりの賀正の世も白き世なりけり

賀正の世も白き世なりけり 賀正の世も白き世なりけり

依けるよ玄朝法師の世も賀正の世なりけり

依けるよ玄朝法師の世も賀正の世なりけり

依けるよ玄朝法師の世も賀正の世なりけり

依けるよ玄朝法師の世も賀正の世なりけり

依けるよ玄朝法師の世も賀正の世なりけり

賀正の世も白き世なりけり

賀正の世も白き世なりけり 賀正の世も白き世なりけり

賀正の世も白き世なりけり 賀正の世も白き世なりけり

賀正の世も白き世なりけり

賀正の世も白き世なりけり 賀正の世も白き世なりけり

賀正の世も白き世なりけり 賀正の世も白き世なりけり

賀正の世も白き世なりけり

賀正の世も白き世なりけり 賀正の世も白き世なりけり















女中のかゝるおのほしきおとこは

女中 有久也

おはらけのきりぎりすのうたをうたへて

女中 田舎のうた

おはらけのきりぎりすのうたをうたへて

女中のかゝるおのほしきおとこは

女中

おはらけのきりぎりすのうたをうたへて

女中 讀人不知

おはらけのきりぎりすのうたをうたへて

先帝おこしきおとこのうたは

侍わけ 三東右久也

おはらけのきりぎりすのうたをうたへて

女中 通補朝臣

おはらけのきりぎりすのうたをうたへて

女中 三東右久也

おはらけのきりぎりすのうたをうたへて

女中 おはらけのきりぎりすのうたをうたへて

女中 おはらけのきりぎりすのうたをうたへて

女中 通補朝臣



福島の... (vertical text)

あひ... (vertical text)

あけ... (vertical text)

周知... (vertical text)

夕... (vertical text)

七月... (vertical text)

あ... (vertical text)

乃... (vertical text)

本... (vertical text)

本... (vertical text)

あ... (vertical text)

乃... (vertical text)

本... (vertical text)

あ... (vertical text)

あ... (vertical text)

(... (vertical text)

あ... (vertical text)

あ... (vertical text)

あ... (vertical text)

本... (vertical text)



諸君の御覧の如く此の御覧の如く此の御覧の如く

先づきをしての者人物より

右人臣

先づきをしての者人物より

先づきをしての者人物より

右人臣

先づきをしての者人物より

右人臣

先づきをしての者人物より

右人臣

享和三年三月三日  
享和三年三月三日  
享和三年三月三日

諸君の御覧の如く此の御覧の如く此の御覧の如く

先づきをしての者人物より

右人臣

先づきをしての者人物より

右人臣

先づきをしての者人物より

右人臣

右人臣

右人臣

先づきをしての者人物より



Handwritten text in Arabic script, top section of the left page.

Handwritten text in Arabic script, middle section of the left page.

Handwritten text in Arabic script, bottom section of the left page.

Handwritten text in Arabic script, top section of the right page.

Handwritten text in Arabic script, middle section of the right page.



いづれか

信

か

よ

い

せ

福

く

い

の

香上御書

い

か

大補

い

か

せ

い

い

い

い

い



妻乃為飯子... の日あり...

善補綱目

あひるまに...

あひるまに...

あひるまに...

あひるまに...

卷第二

天曆五年十月晦日於昭陽合樞之為藏人左也... 又奉行文禁制文字略之

貞應二年九月二日... 傳編孫也

同日令讀合書入落字

戶部尚書左左判

天曆五年三月二日... 貞應二年三月二日...

貞應二年三月二日... 貞應二年三月二日...

貞應二年三月二日... 貞應二年三月二日...







